

2020年3月期 第1四半期決算説明会  
主な質疑応答

Q: 1Q 営業利益計画に対して、全社では計画通りに進捗したとのことだが、事業別ではどうだったのか。

A: イメージングは、チェキが新製品発売前の端境期であったことに加えて、デジタルカメラの市況が厳しく、計画未達。ヘルスケアは、再生医療、メディカルシステム、バイオ CDMO 事業を中心に好調に推移し、計画を過達。マテリアルズ、ドキュメントはほぼ計画通りの着地となった。

Q: 1Q のチェキの販売台数と、通期の販売計画を教えてください。

A: チェキは約 120 万台の販売実績。今年度より販売台数を追うことはせず、2018 年度と同等の 1,000 万台レベルの販売を維持しつつ、フィルムや高付加価値製品の拡販によりインスタントビジネス全体での売上、利益の維持拡大を目指している。2019 年 6 月に販売を開始した「instax mini LiPlay(インスタックス ミニ リプレイ)」は、写真とともに音声を記録することが出来る新しいタイプの商品で、世界中で好評を得ている。当商品を中心に、2Q 以降の販売を加速し、目標の達成を目指す。

Q: デジタルカメラの市場環境は厳しいが、どのように売上を拡大していくのか。

A: 市場環境は厳しいが、当社は小型軽量と高画質を両立する「X シリーズ」と、フルサイズの 1.7 倍の面積を持つ大型のラージフォーマットセンサーを搭載し、圧倒的な高画質を実現する「GFX シリーズ」のラインアップ拡充により他社と差別化を図り、売上の増加を目指す。

Q: チェキ本体を中国で生産しているが、米中貿易摩擦の影響について教えてください。

A: 米国が 9 月の発動を決めた対中関税第 4 弾については、チェキ本体が対象になる可能性がある。但し、フイリピン工場への生産移管を進めるなど対策を講じており、影響は軽微である。

以上